

“服の回収から参加できる” 株式会社JEPLANを訪問して



(株)JEPLANにて、管理課長 園田雄俊さんと

今回私たちは、(株)JEPLAN 北九州響灘工場を訪問しました。この企業は「一度使われた服が、燃やされたり埋め立てられたりしている状況を改善させたい」「大量に捨てられている服を循環させたい」という想いから設立された企業です。そこで、資源循環のサプライチェーンを構築させるために、「BRING™」というブランドが設立されました。

「BRING™」では、一般消費者から不要になった衣類を提携する小売り等の店頭で回収し、素材に応じたリユース・リサイクルを行なっています。中でもポリエステル繊維の衣類については自社のリサイクル工場にてポリエステル樹脂に再生し、「BRING™」というオリジナルアウトドアアパレルを展開という、「服から服をつくる™」サーキュラーエコノミーを実現させています。

北九州響灘工場に集まった衣類は、まずソーティングセンターという部門で、タグを見ながらポリエステル100%のものやその他素材等に全て手作業で分別されていました。そこから分別されたポリエステルの衣類は、解重合→脱色・精製→重合という化学的な処理をしていきます。北九州響灘工場では、ポリエステルの分子レベルまで分解するケミカルリサイクル技術を使用し、染料などの不純物を取り除き、リサイクルすることができるのが、大きな特徴の一つです。

また、この工場では衣服のリサイクルだけでなく携帯電話のリサイクルも行っていました。携帯電話のプラスチック部分を熱分解させ、再生油と金属部分に分離することで貴金属濃度を高める油化処理の工程を実施していました。分離した再生油は油化処理工程の熱源として再利用しているため、リサイクルの過程でもSDGsに配慮されています。

今回(株)JEPLAN 北九州響灘工場を訪問して、私たち消費者がどの商品を購入し、どうやって消費していくのか、こういった一つひとつの選択が未来を大きく左右していくことを学びました。また、未来の子どもたちにとって住みやすい世の中にするために、建前だけの環境活動を行うのではなく、私たちが環境活動を行う際の目的意識を明確にすることが大切であると感じました。

(北九州市立大学地域創生学群 金子穂乃花・古井陽)



未来ホテルデー

6月4日(土)・5日(日)、環境ミュージアムでの「未来ホテルデー」に、北九州市立大学ESDプロモート実習の学生18名が参加しました。今回は「牛乳パック de コースター」と題して、子どもたちと楽しく触れ合いながら、かわいらしいコースターを作成しました。この企画を通して、多くの方にESDやSDGsについて伝えることができました。



2022北九州SDGs未来都市アワード

たくさんのお待ちしています!

Kitakyushu SDGs

2022北九州SDGs未来都市アワード

SDGsやESDの活動を募集します!

令和4年8月15日[月]~10月5日[水] 17時必着

応募資格
北九州市内を中心にSDGsやESDの普及に貢献し、SDGsの達成に寄与する活動を展開している学校・団体・企業等の活動。

北九州SDGs未来都市アワードとは?
SDGsやESDに関心のある活動者の集まり。市内におけるこの活動は、より一層普及させることを目的とし、SDGsの達成に寄与する活動を展開している学校・団体・企業等の活動を表彰するものです。

主催：北九州市・北九州ESD協議会

北九州市内を中心にESD/SDGsの普及に貢献し、SDGs達成に寄与する活動を展開している学校・団体・企業等からの活動報告を募集します。

ESD/SDGsの活動を顕彰することで、活動者の意欲の向上と本市のESD/SDGsのさらなる推進を図ることを目的としています。

【募集期間】令和4年8月15日[月]~10月5日[水] 17時必着
詳しくは北九州ESD協議会HPまで <https://www.k-esd.jp/>



編集後記

今回の企画にあたり、メンバーで平和について考え、話し合いました。北九州には平和に対する想いの強い人たちがたくさんいるのだから、記事に残していこうというみんなの想いで作成にあたりました。インタビューを経て記事にし、残し伝えていく、北九州ESD協議会にとって大切な宝物ができました。次世代へ思いをつなぐESD活動の一つとして、これからも私たちは前進していきます。

(コーディネーター 岩谷かおり)



事務局

〒802-0006 北九州市小倉北区魚町3丁目3-20 中屋ビル地下1階
電話・FAX (093)531-5011
E-mail : k-esd@k-esd.jp URL : <https://www.k-esd.jp>

発行：北九州ESD協議会 事務局
編集：北九州ESD協議会ブランディングプロジェクト
無断転載を禁じます
Copyright © 2007 Kitakyushu ESD Council
All Rights Reserved.



未来パレットだより

July 2022

vol. 32

2022年7月31日発行
北九州ESD協議会

ESDとは、「持続可能な開発のための教育」を意味する英語Education for Sustainable Developmentの頭文字をとったものです。

今こそ、「平和」について考えるとき...

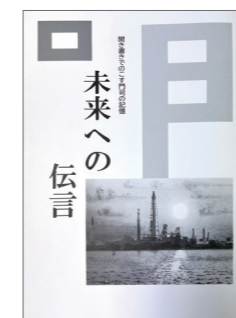
今年で戦後77年目を迎えます。戦争体験者は高齢化し、記憶の継承に危機感が叫ばれています。各都市で繰り返された大空襲をはじめ、沖縄戦や広島・長崎への原子爆弾投下など、数々の悲惨な出来事は、紛れもなく我が国で起こったのです。

そんな折、北九州市に「平和のまちミュージアム」が開館しました。この機会に、今一度「平和」について考えてみませんか...

平和を願うまち「北九州市」に生きる私たち

SDGs未来都市を掲げる北九州市に、2022年4月19日、「平和のまちミュージアム」がオープンしました。SDGsの16番の目標である「平和と公正をすべての人に」等を伝えるこのミュージアムは、小倉城を仰ぐ位置にあります。

なぜ、この場所に平和を願うミュージアムが生まれたのでしょうか。緑あふれる勝山公園を中心としたこの敷地一帯(約176,000坪)は、かつて西日本最大の兵器工場であり、長崎に落とされた原子爆弾の第一投下目標でもあったからです。当時、小型戦車や高射砲などを作る兵器工場に働いていた約4万人の人は、大人ばかりでなく学徒動員の学生などもいました。その生徒たちは今では90歳を超え、体験談を聞く機会も激減しました。私たちのまちで起こった戦争の記憶を忘れずに後世に語り継ぐことは、平和の尊さ、命の大切さを考える上で大切な学びです。だからこそ、誰かがどこかで伝えるという活動が求められているのです。



ESD協議会のメンバーでもあり、平野市民センターを拠点として活動している聞き書きボランティア「平野塾」は、戦後70年をきっかけに結成された市民グループです。長崎の原爆投下の前日、米軍のB29爆撃機は八幡に焼夷弾の雨を降らせ死者約1800人ものを出した八幡大空襲の体験者から証言を聞き書きという手法で記録しました。「あの日、八幡で何が起きたか」を含めた3冊の証言集を発売し、世代を超えたさまざまな交流をしながら次世代へ語り継いでいます。

また、西門司市民センターでは、門司空襲と門司の大洪水の聞き書きを大学生と共に、「未来への伝言」という記録集を制作し、それを基に地域の子どもの交流へと発展させました。この夏は従軍体験者取材したものを漫画化してきた「北九州 戦争を次世代に伝えていく会」を支援し、新たな視点での平和学習活動が始まっています。

その他、地域の貴重な歴史を伝える「北九州インタープリテーション研究会」では、戦時中、到津遊園(現到津の森公園)で犠牲になった動物たちの物語「クマさんの消えた日」を大型紙芝居にしたり、金属供出で溶かされそうになった桃太郎像の物語について調査し、「ももたろうからのてがみ」という絵本を制作したりして、平和の意義を語り続けています。

八幡大空襲があった1945年8月8日、小伊藤山の防空壕に避難した約300人が煙に包まれ亡くなりました。戦後、空襲の戦禍に焼け野原となった平野地区を平和復興のシンボルとするために、旧八幡市の守田道隆市長は、復興平和記念像の建つロータリーを中心に、図書館や中央公民館(都市公民館発祥)を配置し、社会教育を柱とするまちづくりを推進しました。それは今なお北九州の歴史に刻まれているのです。今年も小伊藤山公園では、平和を願う慰霊祭が予定されています。ニュースでウクライナの戦禍が報道され、平和の尊さを改めて感じる毎日、まちの記憶を蘇らせ伝えようとする協議会のメンバーたちの活動は、平和のまちを支える大きな礎となっているのではないのでしょうか。



(北九州ESD協議会ブランディングプロジェクトリーダー 原賀いずみ)

※金属供出：日中戦争から太平洋戦争にかけて武器生産に必要な金属資源の不足を補うため、官民所有の金属類回収を行う金属回収令が発令された。



平和のまちミュージアム訪問記



平和のまちミュージアム 重信幸彦館長にインタビュー

皆さんは、約80年前の勝山公園がどんな姿だったのかご存知ですか。今でこそきれいな芝生で整備されていますが、当時は、西日本最大級の兵器工場「小倉陸軍造兵廠(しょう)」がありました。今回私たちは、その勝山公園の一角に今年4月に開館した「平和のまちミュージアム」を訪れました。

同ミュージアムの重信館長は「このミュージアムは、結論を与える施設ではない。来館した方自身に考えるきっかけを与え、また関わってくださる方々によって育てられていく施設である」とおっしゃっていました。

確かに、ミュージアム内には来館者に新たな気づきやさらなる関心を抱かせる工夫が随所に見られます。所蔵資料3000点の中から厳選された実物資料に加え、子どもにも分かりやすいプロジェクトマップやアニメーションを用いた解説や、体験者の証言に基づき制作された、空襲を追体験できる360度シアターなどがあります。文字でただ説明するだけではなく、映像や音などを駆使して来館者に訴えかける仕組みになっているのが、このミュージアムの最大の特徴です。

私たちは、平和のまちミュージアムでの取材を通して、「平和」について改めて考えさせられました。今までは、平和とは私たちに当たり前の「日常」だと思っていました。しかし、世界では現在でも平和が脅かされる事態が起きており、日本もいつまでも平和なままでいられるという確証はありません。「平和」という言葉の概念は大き過ぎますが、まずはかみ砕いて考え、他人ごとではない身近な問題として考えることが大切です。その考え方を創り上げるためのツールになるのが「平和のまちミュージアム」だと思いました。

これから歴史を紡ぎ、育み、そして語り継いでいく若い世代の人々にとって、平和のまちミュージアムがその拠点の一つになることを願っています。



北九州市 平和のまちミュージアム

戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけづくりを目的とした施設

北九州市小倉北区内 4番10号 (JR「西小倉駅」下車徒歩約10分)
開館時間 9時30分～18時 (入館は17時30分まで)
料金(個人) 一般200円、中学生・高校生100円、小学生50円

平野塾「八文字カフェ」に参加して…

戦時中の八幡市では、3回の空襲がありました。最初は、1944(昭和19)年6月16日未明に中国四川省成都から八幡製鉄所を主目標とした米軍のB29爆撃機による日本本土初の空襲でした。続いて、8月20日と21日に中国成都から昼夜2回に渡っての空襲がありました。翌1945(昭和20)年8月8日にはマリアナ基地と沖縄から市民を標的とした無差別絨毯(じゅうたん)爆撃が行われました。

この八幡大空襲をはじめ、平和について戦中世代と戦後世代とが語り合う「八文字カフェ」という月1回の集まりを、2019年秋から「聞き書きボランティア『平野塾』」が主催しています。

私たちは6月18日(土)に開催された「八文字カフェ」に参加し、八幡大空襲や旧満州での過酷な体験をされた方々の貴重な話を伺うことができました。「平野塾」では、戦争体験者が語る空襲の恐怖や食糧難、肉親との別れなどの話をじかに聞けるのはあと数年しかないという思いで、この活動を継続しているとのことでした。私たち若い世代が、後世にしっかりとつないでいくことが大切であると感じました。

(北九州市立大学地域創生学群 桑原風嘉・金子穂乃花)



参加者持参の「戦地で銃弾に撃ち抜かれた日章旗」

平野塾

八幡大空襲の語り部活動に尽力する八幡東区平野地区の市民サークル(問い合わせ先) 平野市民センター 093-661-1584

八文字カフェ

毎月1回開催される平和について語り合う会 会場 北九州市立平野市民センター 北九州市八幡東区桃園四丁目1番1号 開催日 原則、毎月第三土曜日



北九州市に息づく「平和」への想い

原子爆弾の投下候補地だった小倉。そのため、北九州市には、「平和」に対する想いの強い方がたくさんおられます。その方々に直接お会いし、話を伺うことで、その想いを形として残しておく必要があると考えました。私たちには、次世代へ語り継いでいく責任があります。恒久的な世界の平和を願って…

「戦争」を漫画で発信！樺島さんへインタビュー

「北九州 戦争を次世代に伝えていく会」代表

皆さんは、日本のことをどのくらい知っていますか？ 今回私たちは、樺島由彬さんの話を伺って、そのことについてもう一度見つめ直す必要があると感じました。

樺島さんは、戦争体験者から聞き取りを行い、その内容をプロの漫画家に依頼して、漫画で分かりやすく若者に発信する活動をされています。

戦争に興味のない人に、一歩でも半歩でも興味をもってもらい、どうしたら作品を手にしてもらえるかを意識しながら、現在のところ三作品を手がけておられます。

今後は、一人称で従軍体験を語る方がおられるうちに、一年に一作品ずつ手がけていくのに並行して、市民センター等での講演活動も積極的に行っていきたいそうです。この活動が教育現場の方の目にとまり、教育現場に持ち帰ってもらうことを望んでおられます。そして、これからの日本社会を担っていく若者に、まずは私たちの国についてもっと興味を持ってもらい、自分の意見をしっかりと発信してほしいとおっしゃっていました。

今回のインタビューを通して、戦時中の人たちの犠牲を無駄にしないためにも、私たち若い世代はもっと日本のことを知り、日本について胸を張ってアピールできるようになることが大切だと感じました。

(北九州市立大学地域創生学群 古井陽・園田和希)

漫画についての問い合わせ

北九州 戦争を次世代に伝えていく会 <https://www.kitakyu-zisedaini.com>



- はっちゃんの飛行兵奮闘記「末吉初男さんの戦争体験記」
 - 最後の手紙
 - シベリア抑留を生き抜いて「鳥谷邦武さんの戦争体験記」
- 各500円(送料込) ネットショップの場合は各600円

北九州で平和を願い、繋ぐ想い

ロシアのウクライナ侵攻をはじめ、世界の国々では紛争などが起こっています。ESDやSDGsの観点からも、いかに「自分事」に置き換えて考えられるかがとても大事だと考えています。

私は、6月11日に西門司市民センターで開催された講座で門司空襲の体験を綴った「白いなす」の作者で児童文学作家の黒瀬圭子さんらの話を聞き、生まれ育った門司で起きた戦いの歴史を知らなかったことを恥じると同時に、先人達により復興を遂げてきた街が改めて好きになりました。「大人は、戦争が悪いと分かっているのに、なぜ戦争をするの?」と聞かれた時にどのように答えるべきかと考えていたところ、西門司市民センターの渡辺いづみ館長から「一緒に考えよう」と言われ安心感を覚えました。

私も長崎に4年住み、原爆犠牲者慰霊式典等に参加して遺族の方々の想いを感じてきましたが、戦禍は日本各地に及んでいたのだと、改めて感じました。

到津の森公園に伝わる戦争の記憶と先人たちの想いを語り継ぐ原賀いづみさん。小伊藤山公園の想いを繋ぐ平野塾。戦争の体験を聞き書きし、漫画という表現手段で伝えようとする樺島さん。知らないことを知ることができ、触れられるまち北九州。

今回の企画を通して、戦争に向き合った学生たち、戦争を知らない世代だからこそ、伝え合い、つながり合う形が見えてきたような気がします。

実態を体験することは難しいですが、平和のまちミュージアムや平野塾の慰霊祭、到津の森公園のイベントに行かれてみてはいかがでしょうか。私は足を運び心に刻み、家族と「一緒に考えよう」と思います。大切な想いを持った人々が北九州に沢山いることに感謝いたします。

(北九州 ESD 協議会事務局 山田大輔)

